



発刊のことば

全国高等学校体育連盟体操専門部

部長 平岡 宏一

全国高等学校体育連盟体操専門部創立70周年、誠におめでとうございます。体操部創立70周年記念誌の発刊は、戦後日本の復興とともに発展してきた体操界の歴史を顧み、今後の指針を示すものとして大変意義深いことでもあります。これも偏に歴代部長を中心とした関係各位の体操競技及び新体操に対する使命感とご尽力の賜と改めて敬意を表す次第であります。また同時に、今その一端を担わせていただくにあたり私自身、その重責を思い身の引き締まる思いであります。

体操は、第1回近代オリンピックから正式種目として行われ、1896年に男子が、1928年には女子が、体操競技として現在の形に移行してきました。また、新体操は、1984年よりオリンピックの正式種目とされました。日本は、1932年ロサンゼルス大会に初参加以来参加しており、男子は、ローマ大会からモントリオール大会まで団体5連覇の偉業を成し遂げ輝かしい歴史を築いてまいりました。その後アテネオリンピックにおいて、28年ぶりの金メダルを獲得、そして昨年2021年、皆様の記憶にもありますように東京大会においては、男女合わせて金メダル2個・銀メダル1個・銅メダル2個と素晴らしい結果を残しコロナ禍の中、日本国民に勇気を与えてくれました。これら過去のオリンピックのほとんどすべての選手がインターハイに参加し、その経験を活かし世界の舞台で活躍してくれました。わが全国高等学校体育連盟体操部は、今後もその責務を果たすべく正しい継承を続けていかなければなりません。

インターハイ＝全国高等学校体育大会は、言わずもがな教育の一環として、高校生に健全な精神のもとお互いが切磋琢磨しあい、人として成長していく場を提供するべきところです。競技ですから必ず勝ち負けがあり順位付けがあります。しかし、その経験は、勝者はおごることなく、敗者はその悔しさを将来への大きな糧として、どちらも人生における大きな財産となることは間違いありません。

我々全国高等学校体育連盟体操部は、大会役員だけでなく、開催県の役員、たくさんの地元高校生、そして参加できなかった選手も含めた全国の高校生とその指導者の皆様等々たくさんの人々のご理解とご協力なくしてその責務を果たすことはできませんでした。これからも変わることないご理解とご協力のもと歩んでいく所存であります。そしてその成果として、輝かしい体操ニッポンの歴史と、数えきれない立派なアスリートの成長を祈念して、発刊のことばとさせていただきます。



祝 辞

公益財団法人 全国高等学校体育連盟

会長 岡田 正 治

公益財団法人全国高等学校体育連盟体操専門部が、創立70周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。また、70周年記念事業の一環として70周年記念誌を発刊されますことは、体操専門部の歴史を後世に引き継ぐための資料となるとともに、体操競技及び新体操の発展の経緯と今後の道標になるなど、誠に意義深く、高等学校における体育・スポーツ活動のより一層の振興と発展を願うものにとりまして大きな喜びです。

日本の体操競技は、オリンピックや世界選手権などの世界を舞台にした大会で常にトップレベルにあり、「体操ニッポン」や「お家芸」と称され、競技力の高さとしは世界的に認められているところです。東京2020オリンピック競技大会では、金2個、銀1個、銅2個のメダルを獲得し、体操ニッポンの強さと美しさを世界に示しました。また、新体操も、日本選手や団体の芸術性や美しさは、女子種目・男子種目共に世界的にも有名です。

これまで体操専門部は、全国高等学校総合体育大会体操競技大会・新体操大会や全国高等学校体操競技・新体操選抜大会の開催をはじめ、高等学校体操競技及び新体操の充実・発展に努めるとともに、世界に通じる選手の育成・強化にも尽力されてこられました。令和4年度全国高等学校体育連盟の加盟登録人数においては、体操競技男子1,674人、女子2,506人、新体操（一部体操競技を含む）男子418人、女子1,959人となっています。これからも、高体連で育った選手や、高体連に登録している選手の中から、世界を舞台に活躍する選手が一人でも多く出ることを願うとともに、高等学校の部活動における体操競技及び新体操の裾野拡大と競技力向上が、今後も一層図られますことをお願い申し上げます。

結びに、70年の長きにわたり、将来の日本を支える高校生の健全育成と選手強化を図っていただいております、公益財団法人全国高等学校体育連盟体操専門部の皆様のこれまでのご努力に感謝申し上げますとともに、専門部創立70周年記念誌発刊を契機に、今後益々発展されることを祈念申し上げ、発刊に寄せるお祝いの言葉といたします。



全国高等学校体育連盟体操専門部 70周年を迎えて

公益財団法人 日本体操協会

会長 藤田直志

この度は全国高等学校体育連盟体操専門部設立70周年おめでとうございます。本体操専門部は全国都道府県高等学校における体操競技並びに新体操の健全な発展をはかることを目的として活動を行い。これまでに多くのオリンピック選手・世界選手権代表選手をはじめ、数多くの選手を輩出してまいりました。

これらは70年前から脈々と続く先人の方々の系譜及び努力が引き継がれてこそ実現できるものであります。

本体操専門部が設立された1952年。日本体操界では上迫忠夫選手、竹本正男選手、小野喬選手らの活躍により、初めてオリンピックでメダルを獲得したヘルシンキオリンピックも1952年でした。その後1956年には「鬼に金棒。小野に鉄棒」と言われた小野喬選手の種目別鉄棒による初めての金メダルをはじめ。1960年から約20年にかけて男子体操10連覇と体操黄金期を迎えた日本体操界は今再び世界の頂点に立っております。昨年開催された東京2020オリンピックまでの間に、合計金メダル33個、銀メダル34個、銅メダル35個と103個のメダルを獲得する日本を代表する競技へと成長を果たして参りました。これら栄光の基となった本体操専門部の活動は高校生たちの競技力向上だけでなく、日本体操界の大きな発展の礎となったのでした。さらに体操は競技での活躍と同時に今後の社会の課題である健康の促進に大きな役割を果たすことが期待されております。

これら体操界の歴史を日本体操協会としましても、本体操専門部と共に引き続き成長、発展させていくべく協力して先輩の皆様になげぬ結果を残せるよう精進して参りたいと存じます。これら大きな歴史の中で体操の礎を支えた本体操専門部設立70周年を迎えるにご尽力いただきましたすべての関係者の皆様に感謝申し上げますと共にご挨拶とさせていただきます。